

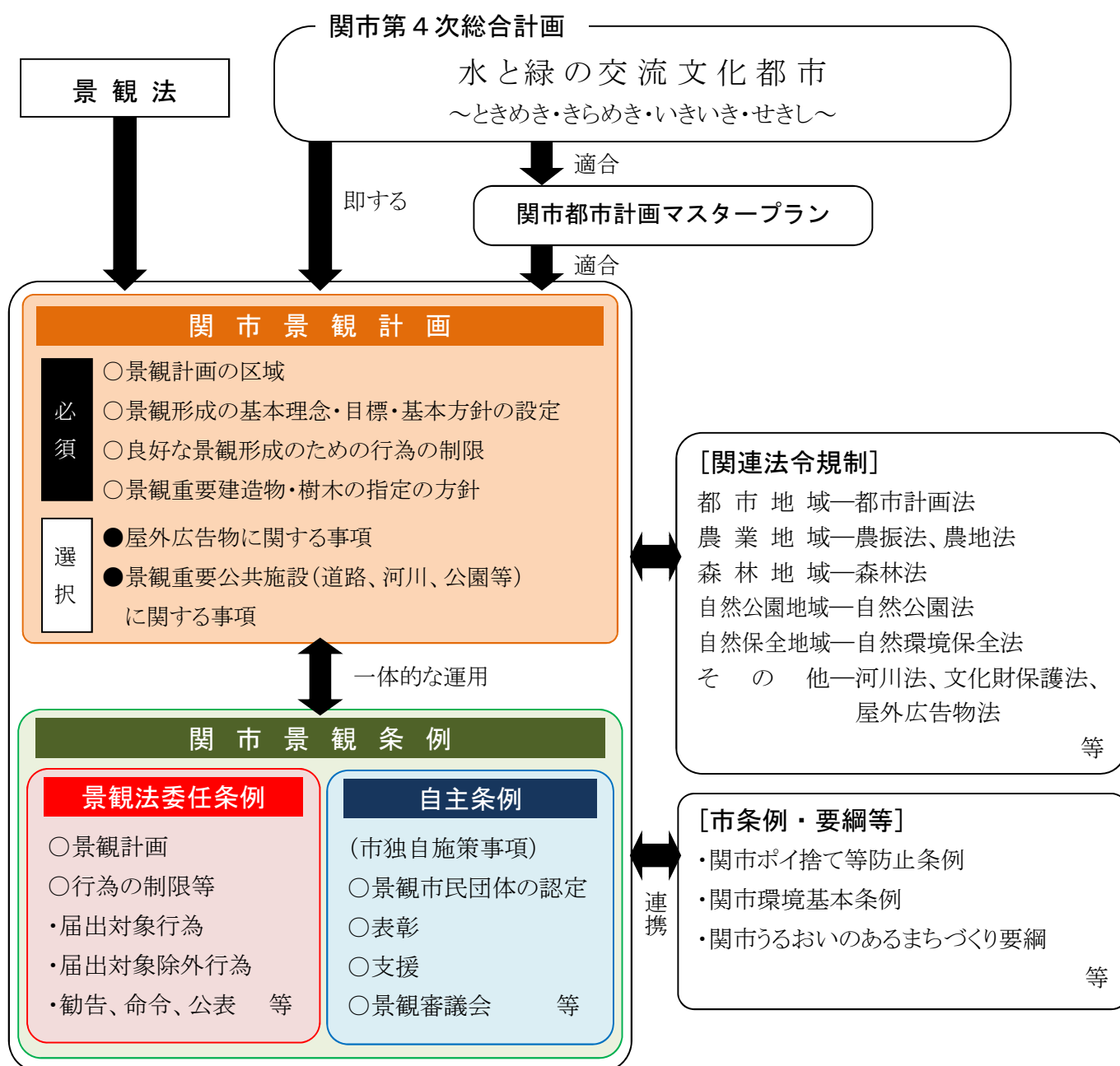
第1章 関市の景観

1. 景観計画の位置づけ

「関市景観計画」は、景観法第8条第1項に規定されている「景観計画（良好な景観の形成に関する計画）」として策定したものであり、景観行政団体としての市、市民及び事業者の協働による「景観まちづくり」を進めていくための基本的な計画です。

策定にあたっては、これまで実施してきた景観に関する各種取組みや関連法令等と連携したものを考慮し策定しました。

[景観計画と景観条例の関係]



2. 関市の景観構造と景観特性

(1) 関市の景観構造

本市の景観は山や川といった地形が連なり、その地形の上に歴史や文化が重ねられ、街道や集落、市街地等の景観構造となっています。

本市を西ウイング、東ウイング、そして市街地の3つのエリアに分けてみると、関市の景観構造・景観断面のとおりに、地形による標高に大きな差がみられます。西ウイングは1,000m級の山なみがみられ、そこを流れる板取川は上流で渓谷をつくり、長良川に注ぎます。東ウイングは300～500m級の山なみで、そこから流れる津保川は蛇行しながら同じく長良川に注ぎます。地形の違いが両ウイングの景観の違いにつながっており、西ウイングは川と道そして家並みが近い景観がみられますが、東ウイングは川に沿って田畑があり、そして集落となり、広がりのある農村集落の景観を有しています。市街地では長良川、津保川、武儀川がゆったりと流れ、田園が広がり集落と市街地を形成しており、その向こうに100～300m級の小山に囲まれる景観が形成されています。



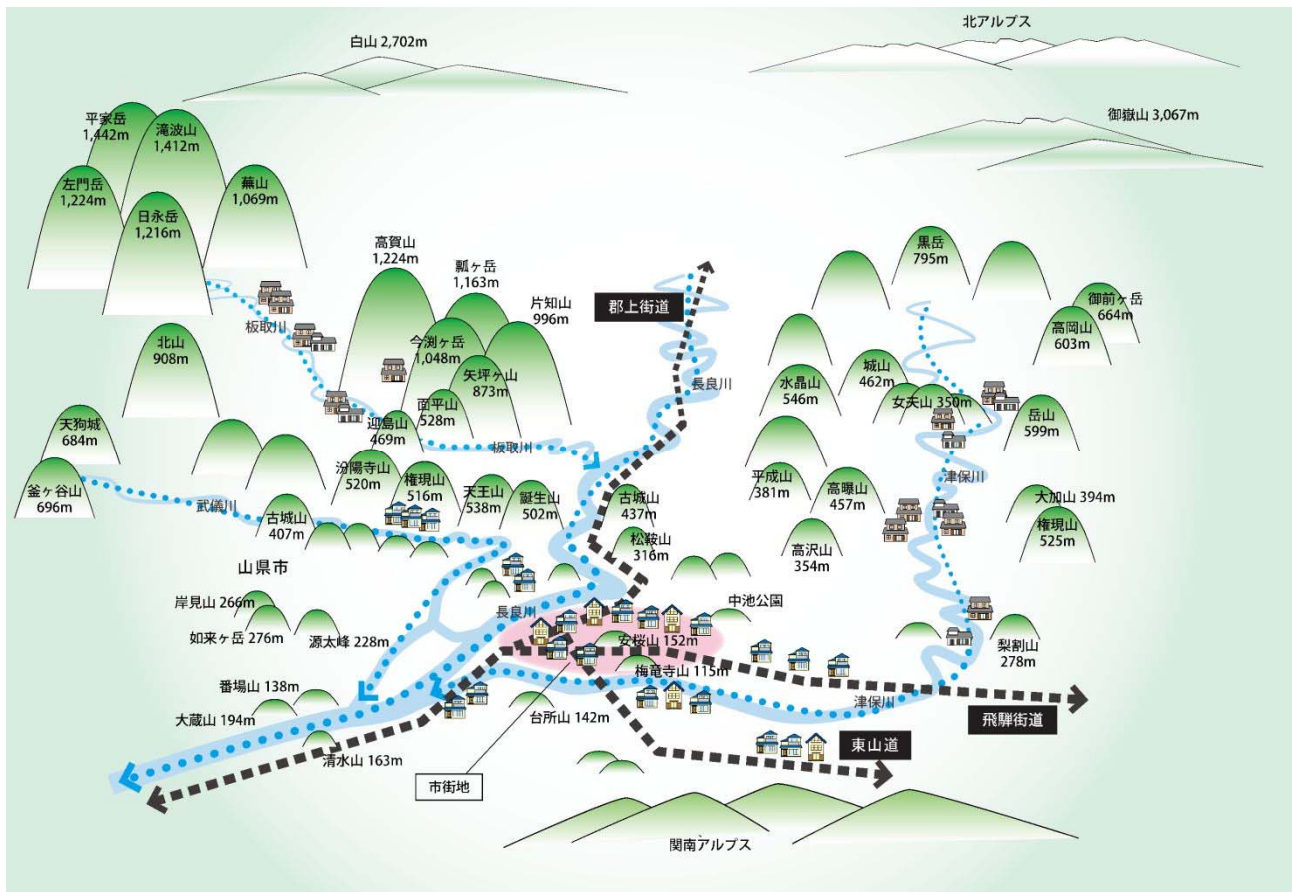
関市の景観エリア

時間軸からみる関市の景観

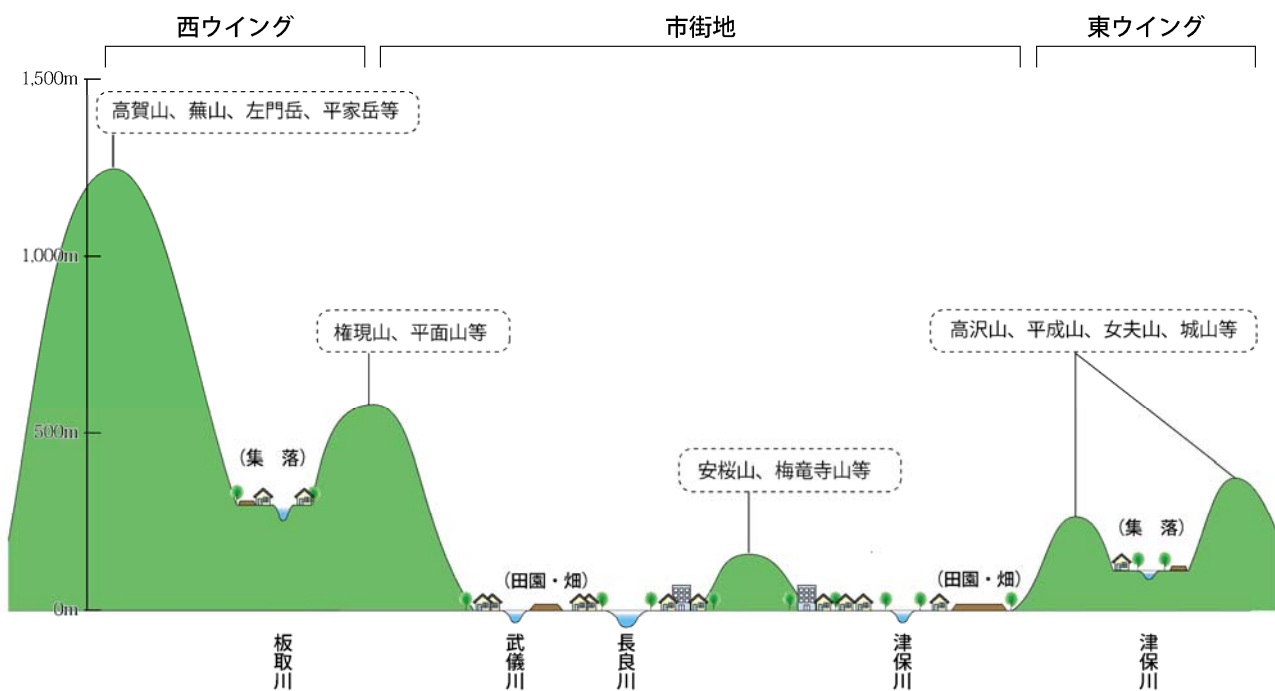
本市の景観資源は多様で豊かな山や川の自然が基軸となり、時間と時代の展開と繰り返しのなかで、今日に継承されてきています。古代には大和中央に対する地方官衙が設置される等、地方の豪族らの活躍とそれらを記録するもの、鎌倉・室町時代（武士の時代）を迎えてこの地は注目すべき記録が景観資源となっています。江戸時代以降は関鍛冶から刃物産業（手工業産業）が発展していく過程であり、産業のまちとしての記録は、鎌倉時代に大和から移住してきた刀匠たちによって春日大社の分霊を祀った春日神社や、近年の関鍛冶伝承館に残されています。

	西ウイング	市街地	東ウイング
	高賀山 板取川 高賀渓谷 川前渓谷	武儀川 長良川 安桜山 関南アルプス	津保川
古代	高賀神社	武芸八幡宮 弥勒寺跡 小瀬鞠飼	迫間不動尊 新長谷寺
中世	株杉	汾陽寺	晩堂寺 新長谷寺三重塔
近世		関鍛冶 春日神社	一本木 関善光寺 名無木
近代		門空入定塚 花馬まつり・武芸八幡神楽 各務用水取水口 長良川の渡し舟	三十三観音塔
現代	洞戸門空記念館 高賀神社水庵 アジサイロード 21世紀の森公園 板取温泉パーク	寺尾ヶ原 千本桜公園 鮎之瀬大橋 道の駅むげ川	関川の桜 吉田川の桜 本町通り 大門町通り 長良川鉄道 吉田沖 中池公園 百年公園

〔関市の景観構造・景観断面〕



景観構造図



景観断面図

(2) 市街地、東ウイング、西ウイングの景観特性

市街地、東ウイング及び西ウイングでは、それぞれの特徴的な景観特性を有しています。

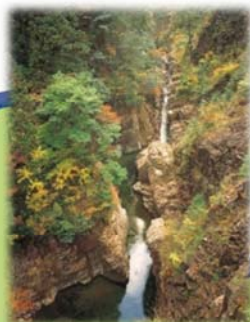
[市街地エリアの景観特性図]



- 長良川を舞台とする小瀬鵜飼、弥勒寺跡等、長良川沿いには古代から政治・経済・文化を記録する景観が多く残っており、それらは本市を代表する景観となっています。
- 市街地には刃物に関する景観が多く、鎌倉時代の関鍛冶の誕生から伝統技能が現代の産業に受け継がれ、テクノハイランド等の工業地が立地する等“ものづくりのまち関”を象徴づける産業景観に特徴があります。
- 安桜山や関南アルプス等、中心市街地や住宅地等を囲むように低層の山なみが背景となっています。中心市街地には関川や吉田川等の河川が流れ、その周囲には吉田沖等の豊かな農地が平地に広がる等、水と緑に囲まれた良好な景観を有しています。
- 本市は古来から東西文化の要衝にあり、本町通り等の歴史ある街道の景観や、高速道路や幹線道路等の新しい沿道景観が形成されています。寺尾ヶ原千本桜公園等の公園や、アメリカフウの並木道、けやき通り、武儀川沿いの国道 418 号等は多くの市民や来訪者が目にする道路であり、まちに潤いを与えています。
- 武芸八幡宮等の神社やお寺、古木等は各地に広くみられ、地域のシンボリックな景観となり、地域住民の身近な景観として守られています。

[西ウイングエリアの景観特性図]

【凡 例】	(景観類型)
	山林
	農地
	住宅地
	市街地
	工業地
	河川軸
	鉄道軸
	道路軸
	自然型
	歴史型
	居住型
	文化型
	眺望型



- 古来から庶民の敬崇を集めてきた高賀山信仰等、地域の風土、歴史や文化が漂う景観が特徴となっています。
- 高賀山や高賀溪谷、川浦溪谷、板取川等の自然から景勝地がつくられ、その豊かな自然に囲まれた山あいの暮らしが表れ、多くの人を魅了する癒しのある景観が形成されています。
- 山や川等の美しい自然に囲まれた場所を求めて、川遊び、釣り、キャンプ等多様なレクリエーションの場が形成されており、その自然と人との共生、人と人との交流が生まれる景観がみられます。
- 美しい自然景観とつりあう「アジサイロード」、桜やさるすべり等花づくりが行われ、地域住民による積極的な景観形成がみられます。



[東ウイングエリアの景観特性図]



- 津保川の流れがつくる自然美や、鎌倉時代の建立とされる多宝塔、美濃清水といわれる高澤観音（大日山日龍峰寺）等の荘厳な歴史的空間が守り継がれています。
- 先人から大切に守られてきた三十三観音塔、道祖神等の石仏は、古くから住民の心のよりどころとなる景観として今も残されています。
- 「デカ木住宅」による地域材の利用や、しいたけのホダ木等、里山とのかかわりの深い生業の見える景観に特徴がみられます。
- 山あいの水田や、茶畑の棚田等、地域の暮らしを感じる農村景観がみられます。
- 多くの人が目にする平成こぶし街道、上之保温泉ほほえみの湯には、四季折々の景観が楽しめ、ゆとりと潤いを感じられる眺望景観を有しています。